

おぐに



2017

9

NO. 755

● 広報





～久しぶりの再会に笑顔～

第69回小国町成人式が、8月14日におぐに開発総合センターで開催され、新成人82人（対象者154人）が出席しました。会場では、同級生との久しぶりの再会に笑顔を見せながら思い出話を弾ませ、楽しいひと時を過ごしていました。

小玉川地区に設置したカメラに映ったニホンジカ（平成28年7月22日）（山形大学農学部江成研究室提供）



鳥獣被害の実態と対策の現状

～拡大するサル被害とイノシシ、ニホンジカの出没～

山形県内におけるクマの目撃件数が今年7月末までに322件（本町31件）に上り、過去5年間で2番目に多い状況になっています。本町では、クマ以外にもニホンザルやニホンジカ、イノシシなどの野生動物が人家近くまで出沒し農作物を食べ荒らすなどの被害が発生し、年々増加している傾向にあります。今月は、これら被害状況と小国町猟友会を中心とした被害対策の取り組みを紹介しながら野生鳥獣対策について考えます。

被害の現状

本町の野生鳥獣による農作物被害は、平成9年ごろからニホンザルが山間部を中心に出没したことはじまりました。その後、平成13年には町中心部に近い伊佐領や沖庭地区まで範囲が拡大し、現在は町全域で発生している状況にあります。

また、積雪の多い地域には生息が難しいとされてきたイノシシとニホンジカの出沒が平成24年から新たに確認されており、本町における昨年度末までの目撃、形跡等の報告件数としては、イノシシが43件、ニホンジカが13件となっています。昨年度までの目撃、形跡確認の場所などから町内全域に生息していることが予想され、今後はイノシシやニホンジカによる農作物被害が拡大する恐れもあります。

特集 鳥獣被害の実態と対策の現状

野生鳥獣被害対策

こうした野生動物から農地を守っていくためには、野生動物の生態などを理解したうえで、有効な対策を継続して実施していく必要があります。

これまで町では、捕獲による有害駆除や奥山への追い払いなどさまざまな対策を図ってきました。

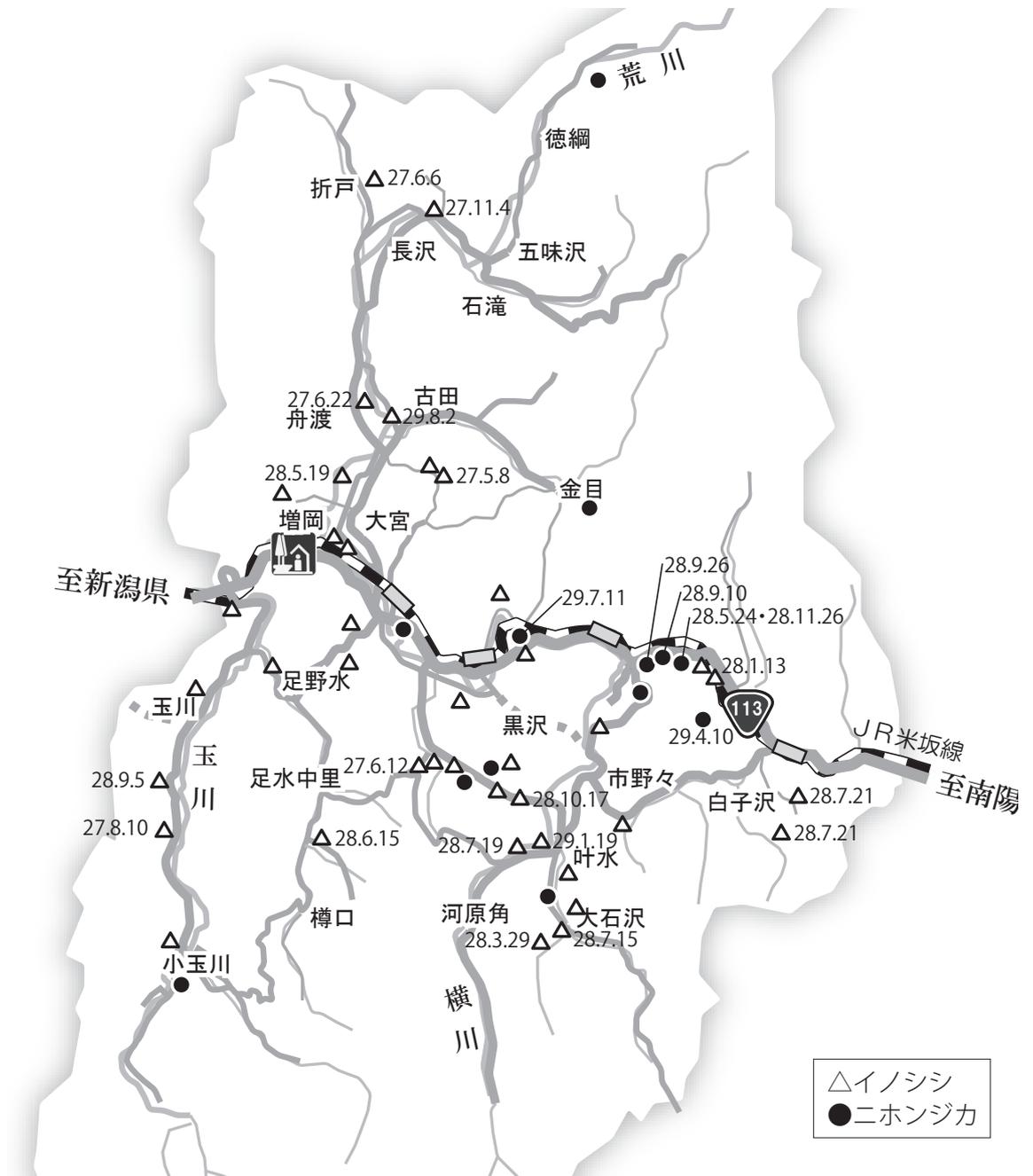
そのひとつとして小国町鳥獣被害対策実施隊（齋藤勉隊長Ⅱ産業振興課長）を組織し、対策にあたっています。この組織は小国町猟友会の全会員で構成され、平成26年10月に発足しました。

これまで、有害鳥獣の捕獲は猟友会が担ってきましたが、猟友会員の減少と有害鳥獣捕獲要望の増加に伴い、猟友会員一人ひとりに掛かる負

担が大きくなってきたため、負担軽減と身分保障を目的に、新たに実施隊として組織されました。

実施隊では、クマやサル、アオサギ、カワウなどの有害鳥獣捕獲と被害量調査や生態調査など、鳥獣被害防止に向

けた活動等を展開しています。小国町猟友会会長の遠藤春男さん（大宮）は、「現在の



本町におけるニホンジカとイノシシの出没状況

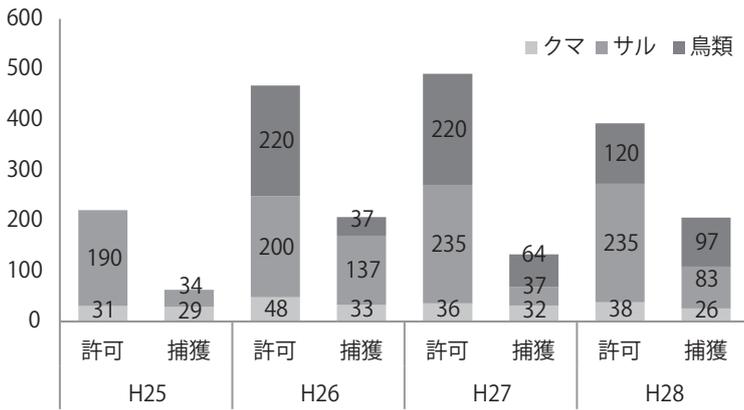
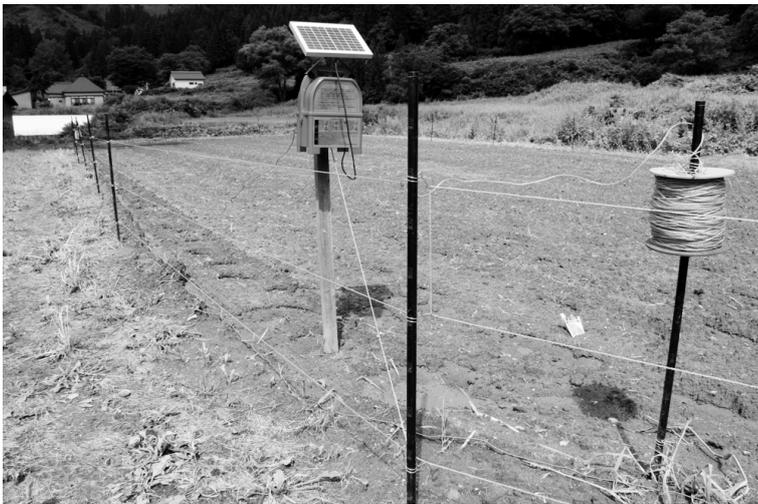


表1 本町における野生鳥獣の捕獲頭数



佐藤さんの畑に設置されている電気柵

猟友会の会員数は、全盛期に比べ約3分の1の106人となっています。最近では、県猟友会や町が免許取得などに対し支援をしていることもあり、若い人が少しずつ増え始めていますが、それでも平均年齢は60歳を超えており、後継者がまだまだ不足している現状です。また、有害駆除は、一般猟期とは異なり突然の招

集などもあり、会員の多くが仕事をしながら活動をしているため、一人ひとりにかかる負担が大きくなっています。農作物被害が出てから対策を講じるのではなく、被害が出る前に追い払い用花火を使ったり近寄らせないような対策や農地の周りに電気柵を張るなどの対策が必要です。」と猟友会の現状などについて話

ていただきました。有害鳥獣の捕獲については、町鳥獣被害防止計画に基づき各年度それぞれの野生動物別に捕獲計画頭数を定め、山形県の許可を得たうえで行っています。過去5年間の捕獲許可頭数と捕獲頭数の内訳は表1のとおりですが、毎年クマやサルを相当数捕獲しているにもかかわらず、人

家近くに出没し農作物被害等を出している状況にあります。これらの捕獲に携わっている小国町猟友会も会員の高齢化が進み、徐々に会員数が減少していることから、町では狩猟免許(猟銃、ワナ猟)及び猟銃所持許可の取得費用の一部の助成を行い、猟友会会員の負担を軽減し、適切な捕獲活動が継続して展開していけるよう会員数の確保に努め

ています。また、捕獲による有害駆除のほかには鳥獣被害を防ぐ有効な手段として電気柵等による対策がありますが、本町における営農形態として主に自家消費用の小規模な田畑が大半を占めていることから、個人で設置可能な電気柵や進入防止柵などについては、資材を購入することが大きな負担となつているため普及が難しい状況にあります。こうしたことから、町では農作物被害の軽減に結び付けることを目的に平成27年度から有害鳥獣被害軽減モデル事業を開始し、電気柵による農作物の鳥獣被害対策を行う農



佐藤 和美さん

年度	件数	補助額
平成27年度	1件	185,000円
平成28年度	4件	447,670円
平成29年度 (8月9日時点)	2件	72,092円

有害鳥獣被害軽減モデル事業の活用状況

業者等に対し、電気柵の購入にかかる費用の一部を支援しています。

モデル事業では、電気柵の適正な設置と安全性を確保した使用方法等の安全講習会を受講することを要件に、設置に要する経費の2分の1、1件あたり20万円を上限に支援をしています。モデル事業を

活用して昨年度電気柵を設置した佐藤和美さん(樽口)は、「足中、樽口方面では、サルが50から70頭の集団となって田畑を荒らしている状況です。昨年は2段張りの電気柵を田んぼの周りに設置しました。一部低くなっていたところをサルに飛び越えられてしまいました。張り方や電気柵の高さを高くすることで、被害を軽減できると思います。今年には畑に電気柵を設置しているため、田んぼにサルが入られてしまい既に1〜2俵(8反歩)程度の被害が出ていますが、今のところ畑の方は入られていません。今後は、田んぼにも電気柵を設置していこうと考えています。」と話してくださいました。

効率的な捕獲方法を学ぶ

全国の狩猟者や野生動物間

題に関心を持つ人々が集う「ブナ林と狩人の会・マタギサミット」が6月24日、25日の2日間、本町旧北部小中学校等を会場に開催されました。マタギサミットは民俗学者で狩猟文化の研究などを行う東北芸術工科大学の田口洋美教授が主宰しているもので、今年で28回目を数えます。

今年、「シカ・イノシシの先端的狩猟及び駆除技術」をテーマに2人の講師を招いて講演が行われました。

1人は、株式会社野生鳥獣対策連携センター(兵庫県)取締役の上田剛平氏で、「シカ・イノシシの銃・わなによる効率的な捕獲技術」と題し、シカやイノシシが1歳半になると、それ以降毎年妊娠・出



大滝地区に設置したカメラに映ったイノシシ(平成29年6月11日)(山形大学農学部江成研究室提供)

産が可能となり、イノシシは1回に平均4頭、シカは1頭を出産すること。また、母系集団で行動するため、一部だけを捕まえても被害が続いてしまうこと。さらに、用心深く危険を察知し、回避する能力を持っていること、エサが得られる場所に繰り返し出没するなど学習能力があり、習慣性をもって行動するなどの



第28回ブナ林と狩人の会：マタギサミット in おぐに

特徴があり、その生態をうまく利用したわなによる捕獲の方法や集団で狩りを行う巻狩りの場所選定のポイントなどについての話がされました。

もう1人は、酪農学園大学（北海道）農食環境群・環境共生学類狩猟管理学研究室の伊吾田宏正准教授で、「シカの捕獲技術をめぐって・シヤープシューティングとは何か」と題し、アメリカで行われている訓練された専門的捕

獲技術者による個体数管理を目的とした狙撃の戦略・戦術であるシヤープシューティングや固有種や生態系を保護するためにシカなどの個体数管理と研究を専門的に行う「ホワイトバッファロー社」というアメリカの非営利の団体によって行われている狩猟者の人材育成・訓練制度などの話がされました。

2日目は、主宰者である田口教授が中心となり、県内外各地域の猟友会員等との意見交換会や本町五味沢地区の猟場見学などが行われました。

里に下りてきた 野生動物たち

本町中心部でもクマなどの野生動物の出没が目撃されている中、県内では山形市や上山市、鶴岡市などの市街地近郊にも出没している状況があります。



木村 慶政 さん

なぜ野生動物が本来生活している山の中からこのように人里近い場所に出没するようになってきたのでしょうか。

これは、クマやサルなどの野生動物が山の食物の豊作・凶作によって人里近くのエサを求めて出没することもひとつの要因として挙げられます。また、狩猟者の減少や狩猟規制などにより、野生動物の捕獲数が減り繁殖が進行したと考えることもできます。

しかし、ここまで多くの野生動物が人里に出没するようになったのには、時代の変遷



サル捕獲檻の設置作業（古田地区）

とともに変化し続けた私たち人間側の社会・生活環境の変化などが野生動物の生息域拡大を招き、人と野生動物の境界となる場所がなくなってしまうたことにあるのかもしれませんが。

小国町猟友会第4班班長の木村慶政さん（古田）は、「地区内のいたるところでサルが出没し、田畑を荒らしています。マタギサミットで県外の

特集 鳥獣被害の実態と対策の現状



町内に設置した檻に入ったサルの親子

かたと話をしても状況は同じでした。私が狩猟を始めた昭和50年頃は、山でサルを見ることはめつたにありませんでしたが、ここ10年ほどで爆発的に増えているように感じています。昭和の時代には、クマはもちろんウサギやタヌキ、サルなどの野生動物を多様な形態で求める人が多くいました。また、山と人との関

わり方として、春には山菜採り、秋にはキノコ採り、冬には炭焼きと多くの人が1年を通して山に入っていました。しかし、時代の変遷とともに、人々の生活形態や食生活が変化し、山から離れて住む人が多くなりました。こうしたことで、荒れ放題となった山や田畑が増え、野生動物の生息域を広げることにつながっているのかもしれないね。」と話してくださいました。

野生動物とうまく付き合うために

全国的に野生鳥獣による農作物被害や人身事故などが発生している中で、住民の安全・安心な生活環境を維持していくために、増えしてしまった野生動物を捕獲して適正に管理することもひとつの手段としてあるものの、それには猟友会などの専門的な知識・技術

を持った方々による活動が不可欠となるため、限度があります。

このため、かつての農山村の暮らしの中にあったように、人と野生動物が棲み分けする空間を確保していくことも求められているのではないのでしょうか。

町では、新たな農地維持対策の取り組みとして、今年度から北部地区をモデルに水田放牧を活用した畜産振興と農地の活用、集約を行っていきます。これは、遊休農地の有効活用や耕作放棄地の解消などを目指すことを第一義としています。こうした取り組みが定着することで野生動物との適正な距離が保たれることにつながるものと思います。今後、さらなる被害拡大を



昨年度実施した金目地区での水田放牧

招く恐れのあるイノシシやニホンジカなどを含めた野生動物による農作物被害対策等を進めるため、県や猟友会などの関係機関・団体と引き続き連携を図りながら、先進事例などの効果的な対策を検討し、人間と野生動物とが豊かな自然環境の中で共生していくよう、適切な管理・対策に努めていきます。



安全に花火を楽しもう ～女性消防団員が花火指導～

小国町消防団（伊藤孝太郎団長）の女性消防団員による花火指導が、8月3日、町内の保育園で実施されました。

夏本番を迎え、自宅などで花火をする機会が増えることから、花火をする際の注意点などを劇を交えて説明しました。

子どもたちは、女性消防団員の劇中の質問に元気に答え、楽しみながら花火の正しい遊び方を学んでいました。



おぐにの自然を満喫 ～白い森おぐに湖体験～



横川ダム水源地域ビジョン推進会（河内昭佐会長）が主催する白い森おぐに湖体験が、8月6日、横川ダム周辺で開催されました。カヌーや木登りツリーイング、つり堀、クライミングウォールなどのほか、横川ダムと発電所の見

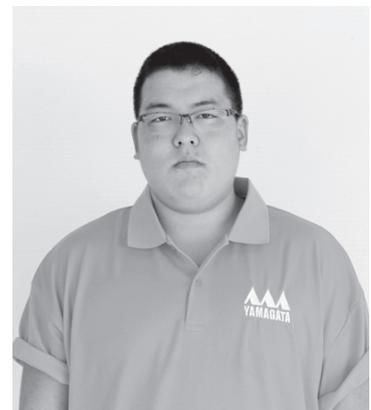
学などさまざまなイベントが行われました。参加者は各会場での体験を通して、小国の森と湖に親しんでいました。

本町出身者が全国高等学校総合体育大会で健闘 ～加茂水産高校2年 和田優也さんが相撲競技に出場～

7月28日から8月20日まで山形県を含む南東北3県で、平成29年度全国高等学校総合体育大会が開催されました。本町からは4人の高校生が参加し、各競技で日ごろの練習の成果を発揮しました。

加茂水産高等学校2年の和田優也さん（東原）は相撲競技団体の副将として出場しました。大会では、予選3回戦を行い上位32チームに入り、決勝トーナメントに進みました。和田さんは「決勝トーナメントに行ったことで、自分たちの弱点がわかりました。これから来年に向けてさらに努力していきたいです。」と話してくれました。

また、男子バレー競技に出場した山形城北高校2年の峰田駿平さん（兵庫館）は、予選リーグで茨城県代表の土浦日大高校、愛媛県代表の松山北高校と対戦し惜しくも敗れました。また、陸上競技に出場した米沢中央高校3年の永井桂大さん（町原）は、4×100mリレーと4×400mリレーでそれぞれ準決勝まで進出しました。さらに陸上競技に出場した米沢中央高校1年の高橋飛雄馬さん（西）は、今大会の出場機会はなかったものの、リレーメンバーとしてチームを支えました。



加茂水産高校2年
和田 優也 さん

魚つかまえたよーっ！！ ～第28回魚のつかみどり大会～



第28回魚のつかみどり大会（魚のつかみどり大会実行委員会主催）が、7月30日、白い森交流センターりふれ協特設会場で開催され、町内外から親子連れなど約300人が来場しました。大会には幼児から大人まで172人が参加し、イワナやヤマメを水しぶきをあげながら追いかけていました。また、会場では、魚をその場で塩焼きにし、参加者は美味しそうに新鮮な焼き魚をほお張っていました。



「猟師への一步」

緑のふるさと協力隊 ^{やまなか なち} 山中 那智

緑のふるさと協力隊の山中那智です。4月に小国町に来たから4カ月以上経ちました。毎日がすごく楽しく充実していて、初めて小国町に来たのが昨日のように感じるほど時間が早く過ぎていきます。

僕は「小国町で何をしたいの？」と皆さんから聞かれたときには、必ず「狩猟文化に触れたいです！」と答えています。小国町での活動は狩猟に関わるものも多く、いつかは自分も狩猟をしたいと考えていました。そして8月20日、ついに念願の狩猟免許試験を受けてきました。気になる結果は……無事合格！これも小国の皆さんから指導していただいたおかげです。しかし、狩猟をできるようになるにはまだまだ多くの手続きが必要です！狩猟ができるようになったら、自分が感じた魅力を発信していけるよう頑張ります！



「夏に舞う」

地域おこし協力隊 ^{のぐち たつひこ} 野口 達光

今年で3回目となる北部地区盆踊り大会が、8月15日に開催されました。天候が心配されたため、旧北部小中学校体育館で行われました。去年は率先して踊らせてもらいましたが、今年は記録用の写真撮影をメインに参加させていただきました。帰省中の親戚みんなで来られているかたもいて、久々の一家での交流を楽しむ姿が見られました。



小国町に来るまでは、なぜ盆踊りをするのか考えたこともありませんでしたが、その意味を教えていただき、私も最近行けていない自分の家のお墓参りにも行かなくやいけないと感じる一日となりました。

羽越水害から50年

災害の爪痕をたどって

その⑤

「昭和42年8月28日山形県南部、新潟県北部を襲った集中豪雨は、未曾有の大こう水となり、平和な緑の町を一瞬にしてどろ沼と化し、あまりにも悲惨な様相にぼう然自失、言葉もないありさまでした。しかも史上最高の豊作に、農家は百万石の恵比須顔で右手に鎌を左手に黄金の穂を握ろうとしたやさきでございませぬ。」

これは、羽越水害の記録「おおみず」の冒頭、当時の今町長が記した一節です。この年は天候も比較的順調で大豊作が予想されていましたが、羽越水害がその喜びを奪いました。水田の被害は、流出・埋没を合わせて153・4ヘクタール（全面積の12%）に及び、この年の米の減収額は、1億3728万円。畑は、流出・埋没を合わせて29・98ヘクタール（全面積の10%）で収獲が皆無になりました。

また、山腹を縫って耕地に注ぐ各地区の用水路は、いたるところで決壊流出しました。町で一番大きい用水施設で受益面積180ヘクタールを有する井の下堰水路は、全長6キロのうち約800メートルが山崩れや地滑りによって流出・埋没する被害を受けました。



◀濁流に削りとられた水田（町原地内）



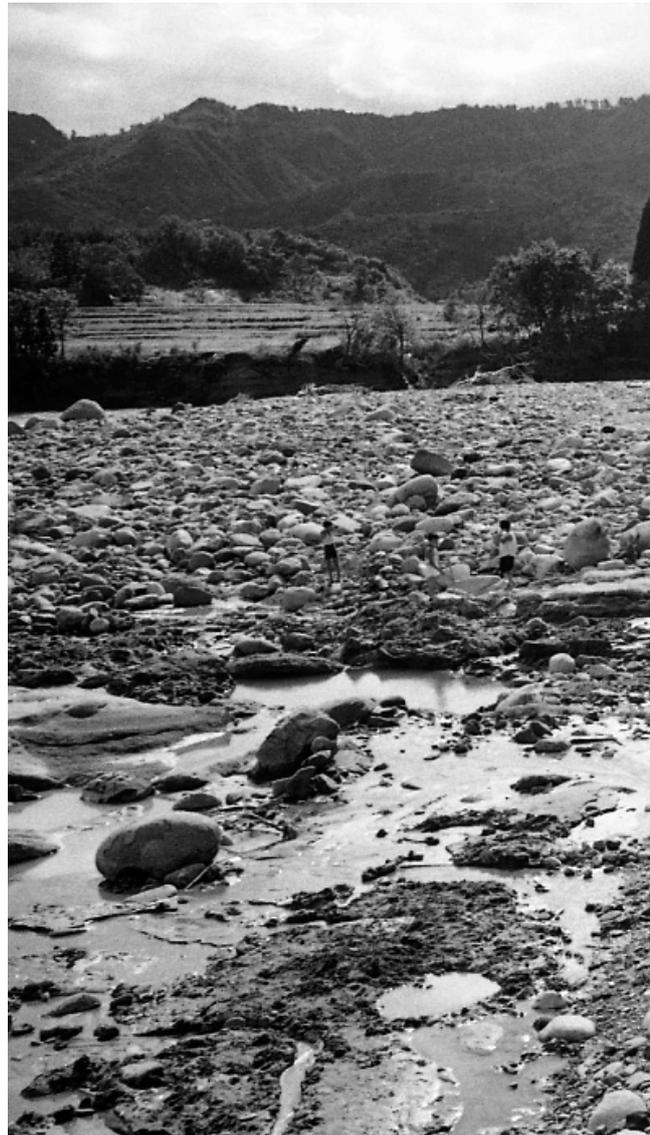
▲川沿いの水田は氾濫に巻き込まれた



▲稲穂を川水で洗う人々



▲泥に埋もれる農作物



白い森まるごとブランド構想

プロジェクトチームが始動

白い森まるごと

ブランド構想

「白い森まるごとブランド構想」とは、本町が有する豊かな自然、生活文化、多様な人財などが生みだす農林水産物や伝統文化、町内企業の生産品や教育、子育て、福祉、防災などの暮らしやすさという視点を含めて町全体をまるごとブランド化するもので、住民満足度の向上と町外における小国町の認知度の向上を図り、地域経済の発展を目指すものです。

町では、今年度から新たに白い森ブランド戦略室と移住定住促進室を設置し、白い森まるごとブランド構想を戦略的に推進していく体制を構築しています。また、地方創生に積極的に取り組む市町村に対して、国が意欲と能力のある国家公務員や大学研究者、

民間企業の人材を市町村に派遣する「地方創生人材支援制度」により、本年8月1日に防衛省から派遣・着任した阿部慎平白い森みらい創生監が、これらプロジェクトの推進にあたっています。

阿部創生監は「ブランドとは、町の内と外との間でのコミュニケーションを通じて形成される強固な信頼関係です。これには町民の皆さん一人ひとりの取り組み・協力が大切です。役場ができることは何でもやっています。」と話しました。

ブランド

プロジェクト始動

白い森まるごとブランド構想を町民の皆さんとともに進めていくため、本年7月に白い森まるごとブランドプロジェクトメンバーを募集し、20代から40代を中心に農業者や会社員、地域おこし協力隊などさまざまな立場の方々に参加をしていただいています。

8月2日には、第1回プロジェクトミーティングをショッピングセンターアスモで開催しました。最初に仁科町長から白い森まるごとブランド構想についての考え方などについて説明があった後、メンバー一人ひとりから自己紹介を兼ねて、「私の考える白い森ブランド」、「10年後にこういう小国町にしたい」、「私が小国町で叶えたい夢」について話をさせていただきました。



クアーズテック(株)小国事業所
亀井崇史さん(左)と今玲子さん(右)

プロジェクトメンバーであるクアーズテック(株)の今玲子さんは、「今回のプロジェクトは、特産品だけでなく、人や自然、企業などまるごとブランド化するというコンセプトですので、町と企業が一体となつていいものを作り、その橋渡し役になりたいと思っています。また、社内報でブランドの取り組みを情報発信できないかと考えています。町民がひとつにまとまり、み



白い森みらい創生監
阿部 慎平



んなで白い森ブランドを早期に実現できるように楽しみながら頑張りたいです。」と話してくださいました。

また、同じくクアーズテック(株)の亀井崇史さんは、「現在、町外の人には小国町にクアーズテックのような製造業の会社があることを認知されていないのが状況です。今後は、会社の知名度を上げていくことで、小国町の知名度向上にもつながるように、さまざまな場面で連携した取り組みができればと考えています。」と話してくださいました。

た。

また、第2回ミーティングを8月19日に電興社寮で開催し、「白い森のたからものさがし」と題し、メンバーがそれぞれ小国の地域資源などのたからものを「自分しか知らないもの」、「とっておきのもの」などに分けて紹介しました。メンバーからは、人や水、雪、企業、立地条件、山、音、温泉、川、滝、アクティビティ、暮らしなど、さまざまな分野の「たからもの」が出されました。

道の駅「白い森おぐに」駅長の竹内健太さんは、「どうしても素通りまたは通過点になりやすい小国町ですが、他市町村と比較しても遜色のない観光資源がたくさんあると思います。道の駅が町外のかたに向けて情報発信をする基地となり、道の駅を起点に町内のさまざまな場所に人の流れを作っていければと思っています。道の駅でも、町内の農家から提供いただいている材料を使って料理を提供していますが、今後は他にはない

味付けや調理法で提供することで差別化を図っていきたいと考えています。また、道の駅に小国のさまざまな商品を出品しやすい環境にし、さらなるPRにつなげていけないかと考えています」と話してくださいました。



道の駅「白い森おぐに」
竹内 健太 駅長

白い森ブランド

確立に向けて

白い森まるごとブランドプロジェクトチームでは、年度内にブランドストーリーを完成させるとともに、チーム内で特産品に磨きをかけ、さらに映像での情報発信など具体的な活動を展開していくこととしています。

白い森ブランドをつくりあ

げていくために重要となるのは、地域全体が一つのチームになり、町民の皆さんとブランドづくりを共有しながら取り組むことです。これにより「一部の人が取り組む白い森ブランドづくり」ではなく、「町民みんなで取り組む白い森ブランドづくり」として、地域内外でのブランドの訴求力を高めていくことができそうです。その結果、観光交流人口の拡大や特産品の販路拡大、定住促進といった効果が生まれていきます。

白い森まるごとブランドプロジェクトチームの活動やブランド展開については、フェイスブック専用ページやホームページで随時情報発信するとともに、白い森ショッピングセンターアスモ内に白い森ブランドコーナーを設け掲示しています。町民の皆さん一人ひとりが主役のブランドプロジェクトですので、皆さんのアイデアやご意見をブランドコーナーに設置している付箋を使ってぜひお寄せください。

羽越水害から 50年 災害を語り継ぐ

羽越水害から50年という節目の今年、国や県、市町村の各機関・団体などで未曾有の大災害を後世に語り継いでいくため、さまざまな事業を展開しています。

新潟・山形両県内にある国土交通省関係出先機関、山形地方気象台、新潟・山形両県、荒川・最上川流域自治体及び関係機関・団体等で記念事業等を実施する実行委員会がそれぞれ組織されました。

新潟県側は「羽越水害50年記念事業（荒川水系）実行委員会」で、フォトコンテストや絵画コンクールのほか、7月29日及び8月5日の両日にわたって治水に関する歴史・

文化を学ぶ「あらかわ治水巡り」、8月26日には新潟県村上市で「羽越水害50年記念シンポジウム」などが開催されました。

また、山形県側は「羽越水害50年行事実行委員会」で、羽越水害を振り返るとともに、水害への対応について写真や情報、水害に関する知識などをまとめた「パネル展」を置賜・村山地方で開催したほか、8月26日に南陽市で「最上川防災講座」などがそれぞれ開催されました。

この他、報道各社が羽越水害の特集を組むなど、さまざまなイベント・媒体による事業が展開されました。

本町では、昭和42年の羽越水害当時の職員が手分けして撮影した写真の一部をプリントし、「羽越水害50年写真展」を8月7日から31日までの間、アスモ及び役場で開催しました。

また、水害の歴史と経験を風化させることなく、次代に引き継いでいくため、10月1日に開催する「平成29年度小

国町総合防災訓練に合わせ、「羽越水害50年記念事業小国町防災シンポジウム」を開催します。

小国町総合防災訓練

■日時

10月1日(日)
8時30分～12時

■場所

小国小学校付近

■訓練内容

小国小学校周辺住民の避難訓練、応急処置救急救護訓練、初期消火訓練、火災防ぎょ訓練、炊き出し訓練など

■その他

災害発生時に自分や家族の命と財産を守るために重要な訓練です。たくさんのかたの参加をお願いします。詳しくは、9月中旬に配布するチラシまたは町ホームページをご覧ください。

■問合先

総務企画課情報危機管理担当 (☎62-2112)へ

羽越水害50年記念事業 小国町防災 シンポジウム

■日時

10月1日(日)
13時15分～16時30分

■場所

小国小学校アリーナ

■内容

【基調報告】
羽越水害を契機に、これまで取り組んできた砂防事業の歩みと今後について

【記念講演】

○演題

「大規模災害から学ぶ、災害への備えと対応」羽越水害から50年の時を経て、今すべきこと」

○講師

防災・危機管理アドバイザー 山村 武彦氏(防災システム研究所所長)

【パネルディスカッション】

■問合先

町民税務課町民生活担当 (☎62-2260)へ

首都圏の大学生8人が本町で合宿

地域資源活用域学連携事業夏合宿（第1班）が、8月4日から9日までの6日間、町内各所で実施され、早稲田大学と国際基督教大学（ICU）、一橋大学の学生8人が地域の情報発信についてフィールドワークを行いました。

参加者は、デザイナーで地域資源活用アドバイザーの青木信之氏から取材や情報発信の方法などについて学んだ後、渡部肉店や「グランマの漬物」を製造する高橋喜美恵さん（伊佐領）などを訪問し、取材しました。また、町内の農家などで農業体験を行ったほか、白い森学習支援センターが主催した地域体験講座に補助スタッフとして参加し小国の子どもたちとふれあいました。8日の成果発表会では滞在中の活動内容を報告し、学生の目線で取材、作成したPR記事を披露しました。

今後、9月6日から11日までの日程で第2班が本町を訪れ活動を展開する予定になっています。



工事請負契約の締結について
 平成23年度から進めている町道松岡黒沢峠線の改良工事における黒沢橋架け替えに係るもので、事業概要として、昨年度鋼桁の架設まで完了しており、今年度は桁上の床版及び高欄の整備と舗装工事を行うものです。
 町内事業者3社による指名競争入札を行った結果、山和建設株式会社に落札決定し、7128万円で工事請負契約を締結することとしました。
 なお、工期は平成29年12月20日としています。

平成29年第5回小国町議会臨時会が、8月1日に開催されました。平成29年度社会資本整備総合交付金事業町道松岡黒沢峠線黒沢橋上部工事請負契約の締結について審議され、原案のとおり可決されました。

平成29年第5回 小国町議会臨時会

入札結果情報（平成29年7月21日～平成29年8月20日実施）

単位(円)

入札日	工事名	施行場所	工期(完了)	予定価格	落札業者	落札価格
H29.7.26	平成29年度社会資本整備総合交付金事業町道松岡黒沢峠線黒沢橋上部工事	黒沢	H29.12.20	66,744,000	山和建設(株)	66,000,000
H29.7.26	平成29年度小国町水道事業針生水源地場内舗装工事	針生	H29.9.15	2,963,000	大和建设運輸(株)	2,900,000
H29.7.26	平成29年度小国町公共下水道事業公共下水道における効率的な事業実施計画策定業務委託	公共下水道整備区域ほか	H30.3.16	9,124,000	日本水工設計(株) 山形事務所	8,400,000
H29.7.28	平成29年度役場庁舎カリヨンタワー修繕工事	小国小坂町	H29.11.10	14,349,000	小国開発(株)	14,000,000
H29.8.2	平成29年度移動通信用鉄塔施設整備事業百子沢地区鉄塔建設工事実施設計及び工事監理業務委託	百子沢	H29.12.15	3,147,000	(株)TTK	2,960,000
H29.8.10	平成29年度地域産業館あいあいLED照明化工事	小国小坂町	H29.11.30	2,312,000	猪野電気工事(株)	2,300,000
H29.8.10	平成29年度町営住宅幸町団地(48-2-39・40)解体工事	幸町	H29.9.29	3,506,000	(株)横川建設	2,800,000

*入札結果情報の金額は消費税及び地方消費税を含みません。

募集

町営住宅入居者募集

- ① 町営住宅小坂町団地
3DK 1戸(3階)
- 家賃 所得と家族構成による
- その他 所得制限あり
- ② 町営住宅あけぼの団地
2DK 1戸(1階)
- 家賃 所得と家族構成による
- その他 所得制限あり
- ③ あけぼの高齢者団地
1LDK 1戸(1階)
- 家賃 所得と家族構成による
- 対象
- ▽世帯所得が21万4千円以下
で住宅に困っているかた
- ▽60歳以上のかたで自立した
生活をおくることができ同
居の場合は同居するかたが
配偶者または60歳以上の親
族であること
- ④ 小坂町勤労者住宅
2K 1戸(3階)
- 家賃 33000円
- 対象 町内事業所にお勤めのかた
- ①②④共通
- ◎敷金 家賃の3カ月分

ご案内

- ◎募集期限 9月11日(月)
- ◎入居時期 9月下旬以降
- ◎問合先 地域整備課建設管理室
(☎62-2431)へ

西置賜防災フェスタ

2017

- 期日 9月10日(日)
- 時間 9時～12時
- 場所 西置賜行政組合消防
本部・防災センター
- 内容

《開会セレモニー》一日消防
署長の任命、飯豊わくわく
こども園によるアトラク
ション

《イベント内容》自衛隊車両・
建設機械の展示、健康相談
コーナー、防火ポスター表
彰式、非常食試食コーナー、
県立保健医療大学花の会に
よる花笠踊りなど

- 問合先 西置賜防災セン
ター(☎0238-88-
1839)へ

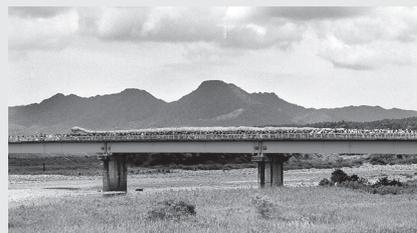
羽越水害50年記念事業（荒川水系）荒川ふれあいフォトコンテスト入賞作品

荒川ふれあいフォトコンテスト審査会が、6月28日に行われました。応募総数72点の中から、厳正な審査の結果、次のとおり各賞が決定しました。

最優秀賞	「夢中」	松沢 淳一 (新潟県五泉市)
優秀賞	「ギネス大蛇、川を渡る」	井川 康徳 (新潟県胎内市)
特別賞	「玉川のきれいな流れ」	渡辺 隆 (新潟県新潟市)
入選	「紅葉の大石ダム」	上杉 正春 (新潟県新潟市)
〃	「吊り橋」	竹田 正志 (山形県小国町)
〃	「釣り人のメッカ」	立川 正允 (新潟県村上市)
〃	「川を守って」	近 伸太郎 (新潟県新潟市)
〃	「晩秋の一本釣り」	太田 誠二 (新潟県新潟市)
〃	「楽園」	小柳 信子 (新潟県新潟市)
〃	「羽越水害を祭りで語り継ぐ」	齊藤 正幸 (新潟県村上市)
〃	「清流荒川と生きる」	手島 岱月 (新潟県田上町)
〃	「朝霧の荒川頭首工」	小山 覚 (新潟県新潟市)
〃	「清流を渡る」	樋口 廣治 (新潟県新潟市)
〃	「冬風景」	伊藤 昇 (新潟県三条市)
佳作	「雪解春始」	高橋 剛 (新潟県関川村)
〃	「お母さん達の炊出し」	花野 省子 (新潟県村上市)
〃	「天空への架橋」	伊與部 順一 (新潟県村上市)
〃	「鳥の越冬地」	坂井 弘司 (新潟県胎内市)
〃	「生命の源清流」	坂井 マツヨ (新潟県胎内市)
〃	「美しき真冬の清流荒川」	高橋 成悦 (新潟県胎内市)



最優秀賞「夢中」



優秀賞「ギネス大蛇、川を渡る」

■問合先 羽越水害50年記念事業（荒川水系）フォトコンテスト事務局（村上地域振興局地域整備部計画調整課）
(☎0254-52-7966) へ

9月の 保健カレンダー

1. 各健診の日程等

■4カ月児健診

- ・期 日 9月29日(金)
- ・受付時間 13:10~13:20
- ・対 象 平成29年5月生まれ

■1歳児健診

- ・期 日 9月29日(金)
- ・受付時間 13:00~13:10
- ・対 象 平成28年9月生まれ

■1歳6カ月児健診

- ・期 日 9月8日(金)
- ・受付時間 12:30~13:00
- ・対 象 平成28年1月、2月、3月生まれ

2. 場 所 健康管理センター

3. その他

母子健康手帳を持参ください。

4. 問合せ先 健康管理センター (61-1000) へ

子育て支援センターから

■9月の広場日程

広場名称	曜日	時間	申込
なかよし広場	月~金	9:30~11:30・13:00~15:30 (水・金は午後のみ)	不要
子育て講座	9月7日「エアロビクス」	おぐに開発総合センター	不要

■対象者 なかよし広場・子育て講座 就学前のお子さんとお家のかた

■その他 平日はいつでも子育て相談に応じています。また、白百合保育園(水曜午前)、すみれ保育園(金曜午前)でも同様の場所を設けています。詳細は各保育園にお問い合わせください。

■問合せ先 子育て支援センター(おぐに保育園内 ☎62-2330)・白百合保育園(☎62-2436)・すみれ保育園(☎62-5284)

休日当番担当歯科医のお知らせ

9月3日(日)	南陽	村越歯科医院	0238-40-3295
9月10日(日)	米沢	みわき歯科クリニック	0238-24-2418
9月17日(日)	長井	西原歯科医院	0238-84-7722
9月18日(月)	米沢	米沢ファミリー歯科・矯正歯科	0238-21-5533
9月23日(土)	米沢	くまの歯科	0238-40-8600
9月24日(日)	南陽	竹田歯科医院	0238-47-2075

求 人 情 報

右の表は8月22日現在でハローワークへ登録された求人のうち、小国町をおもな就業先としている求人情報です。既に雇用が確定している場合もありますので、ご了承ください。
求人情報の詳細については、ハローワーク長井(☎84-8609)へ。

事業所名	職 種	求人数	勤 務 時 間
ALSOK 山形管財(株)	(請) 送迎車両運行	4人	5:50~19:45 の間の7時間以上
(有)小国技研	ボーリング洗浄工及び作業管理補助	1人	8:00~17:00
遠藤建設(株)	重機オペレーター	1人	8:00~17:00
安部工業(株)	型枠大工	1人	8:00~17:00
	運転手	2人	
	現場監督員	2人	
(株)山芳工務店	電気設備工(見習い)	3人	9:00~18:00
荒川興業(株)	製造加工	1人	8:20~17:10
	経理事務	1人	8:30~17:05
	総務事務	1人	
特定非営利活動法人 まんまる	支援員	1人	7:00~18:30
	支援員【急募】	1人	7:00~18:30 の間の5時間程度
太平ビルサービス(株) 置賜営業所	(請) 日常清掃係『小国町~飯豊町』	1人	9:30~13:45
置賜森林管理署	一般事務	1人	9:00~17:00

※先月号掲載分以降に新規で登録された求人を掲載しています。
※町ホームページに求人情報を掲載しています。

今月の納税 2017.9

9月の税金等の口座振替は、次のとおりです。振替日の前日まで、指定の口座に入金してください。

●9月26日(火) 水道料

●10月2日(月)

固定資産税、国民健康保険税・後期高齢者医療保険料、介護保険料、下水道料、簡易水道料、住宅使用料、保育料、児童福祉使用料

■問合せ先

町民税務課税政管理室
(62-2403) へ

クアーズテック工場見学者募集

地域住民のかたとのコミュニケーションを目的にクアーズテックで工場見学者を募集します。

- 日 時 10月18日(水)10:00～13:00
- 内 容 会社概要説明、製造工程見学、エコー弁当試食
- 対 象 町内在住者
- 定 員 10人（※応募多数の場合抽選）
- 申込締切 9月22日(金)まで
- 申込・問合せ先 クアーズテック(株)小国事業所総務担当（☎62-5902）川上へ

平成30年度

「つや姫」生産者を募集します

- 申請手続 生産者集団（JA、米集組合、生産団体など）、または個人が町を通して申請します。
- 募集期間 9月15日(金)まで
- 申請先 産業振興課農政農村担当へ（申請書は、町、JA、各総合支庁農業技術普及課にあります）
- 認定要件 水田経営面積や栽培方法などの要件があります。
- 問合せ先 置賜総合支庁西置賜農業技術普及課（☎0238-88-8212）へ

第27回

排水設備工事責任技術者県内統一試験

- 日 時 11月12日(日)13:00～15:30
- 場 所 協同の杜 J A 研修所
- 申込締切 9月29日(金)
- 講習会 希望者を対象に講習会を開催します。
- 問合せ先 地域整備課水道業務担当（☎62-2431）へ

総合センター 図書室から

～新着図書～

休館日 毎週月曜日・祝日

- ◇我らがパラダイス 林 真理子
- ◇かがみの孤城 辻村 深月
- ◇バラ色の未来 真山 仁
- ◇1日1分見るだけで目がよくなる28のすくい写真 林田 康隆
- ◇呪われた明治維新 星 亮一

相 談

▽人権相談

- 日 時 9月20日(水)
10:00～12:00
- 場 所 アスモ街なかギャラリー
- 対応者 町人権擁護委員
- 問合せ先 町民税務課住民窓口担当へ

危険物取扱者・消防設備士の免状をお持ちの皆さまへ

危険物取扱者・消防設備士の義務として、消防法令では、免状交付の日から10年以内ごとに写真の書換えをしなければならない規定になっています。

写真の書換えをされていないかたは、速やかに手続きをお願いします。

- 問合せ先 一般財団法人消防試験研究センター山形県支部（☎023-631-0761）へ

やまがた健康フェア2017

- 日 時 9月30日(土)10:00～17:00
10月1日(日)10:00～16:00
- 場 所 山形国際交流プラザ（山形ビッグウイング）
- 内 容 健康、医療、介護予防に関する各種イベント、セミナーの開催、健康度チェックコーナーや相談ブースの設置、適塩弁当の販売など（TRFメンバーのSAM氏によるトークショー及び健康ダンス等も予定しています）
- 入場料 無料
- 問合せ先 県健康長寿推進課健康づくりプロジェクト推進室（やまがた健康フェア2017実行委員会事務局）（☎023-630-2919）へ



- 小国町役場 ☎62-2111(代)fax62-5464
- 行政管理室・情報危機管理室 ☎62-2112
- 企画財政室 ☎62-2264
- 白い森ブランド戦略室・移住定住促進室 ☎87-0821
- 住民窓口担当・町民生活担当 ☎62-2260
- 国保医療担当 ☎62-2261
- 税政管理室 ☎62-2403
- 商工観光室 ☎62-2416
- 農林振興室 ☎62-2408
- 会計室 ☎62-2406
- 建設管理室 ☎62-2431
- 建設技術室 ☎62-2432
- 議会事務局 ☎62-2448



戸籍のまど

(7 月 届 出 分)

結婚おめでとうございます。

(小国小坂町 佐藤 鷹重
兵庫館 高橋 あかり)

(小玉川 舟山 和樹
小玉川 勝見 絵里)

おくやみ申し上げます。

今市	高野	正平	(86)
中島	山口	二雄	(83)
小国小坂町	安部	庄次	(80)
大宮	遠藤	芳廣	(82)
新屋敷	金	かおる	(61)
小国小坂町	今	イツ	(93)
増岡	五島	精一	(68)
長沢	高橋	計男	(84)
新屋敷	和田	シク	(92)
岩井沢	尾形	安子	(89)
栃倉	羽田	富二	(85)
小国小坂町	野澤	仁	(70)
大宮	新野	三四	(79)

※この欄に掲載を希望しないかたは、届出の際にお申し出ください。

人口のうごき (平成29年7月31日現在)

人口	男	3,883人	(-7)
	女	3,965人	(-10)
	計	7,848人	(-17)
世帯数		3,097世帯	(-5)

編集後記

夏の間恒例行事となつた大相撲東関部屋の小国合宿が、8月14日から21日まで行われまして今年で14回目となり、来年は15回目です。今年も暑い日が続きましたが、最近はやさしく朝晩が涼しくなりました。暑がりの私は、いまだに布団をかけずに寝ていますが、そろそろ布団が必要になりそうです。寒暖差で体調を崩しやすい季節ですので、皆さんも気をつけましょう。
(斎藤)

9月の あいイベント リングカントリー体験



- 日時 9月21日(木)10:00~
- 対象者 どなたでも
- 持ち物 室内シューズ、飲み物等
- 参加費 100円(保険料込)
- 申込締切 9月20日(水)

小玉川七曲芋煮トレッキング

～飯豊連峰を眺めながらトレッキング～

- 日時 9月25日(月)9:00~
- 集合 町民総合体育館9:00集合
- 場所 小玉川七曲コース(樽口峠)
- 対象者 どなたでも
- 参加費 会員2,500円、非会員3,000円
- 持ち物 飲み物、風呂道具など
- 申込締切 9月21日(木)

■申込・問合せ先
(☎62-5808)

おくにYui
スポーツクラブ

第1回小国町長杯パークゴルフ大会

- 日時 9月23日(土)9:00~(受付8:30~)
- 場所 水源の郷交流広場パークゴルフ場
- 定員 先着60人
- 参加資格 小学生以上の町民
- 参加費 無料
- 申込締切 9月19日(火)
- 申込・問合せ先
水源の郷交流広場パークゴルフ場(65-2086)へ

第10回小国町町民ゴルフ大会 小国町長杯

- 期日 10月8日(日)
- 場所 日本海カントリークラブ
- 募集人数 60人
- 募集締切 9月28日(木)
- 申込・問合せ先
大会実行委員会事務局(山形新聞小国販売所)
(☎62-4265) 11:00~18:00
(fax62-2420) 24時間受付

シリーズ

地域のブランド化とは

その⑤

樽口峠展望台からの飯豊連峰の眺望

本町は、南北を日本百名山である飯豊・朝日の両連峰に抱かれ、町土の9割以上が森林です。自然が織りなす風景

を止めてカメラでその風景を撮影している姿もよく見られます。

はとても美しく、来町者が足

園の一部として手つかずの自然が多く残っています。その中で、



人の手が加わったことで生まれた景観が、樽口峠展望台からの飯豊連峰の眺望です。雪どけを待つ春の樽口峠の一本桜や残雪の飯豊連峰、秋には紅葉と初雪のコントラストなど、県内外から多くのかたがその眺望を求め訪れています。

展望台につながる林道樽口峠線は、昭和53年10月に開通し、その後小玉川地区では、この林道を活用して昭和55年に小玉川観光わらび園を開園しました。このわらび園はもともと地元小玉川集落のわらび野として利用されてきた場所であり、長い時間をかけて人の手で維持管理してきたものです。

この「樽口峠メモリアル・モニュメント」は、飯豊連峰の深みのある景色に巧みに溶け込んでいることなどが評価され、平成6年に山形経済同友会が主宰する「やまがた景観デザイン賞（現・地域づくりのやまがた景観賞）」の県知事賞を本町で初めて受賞しました。

樽口峠展望台からの飯豊連峰の大パノラマを身近なものにしてきたのは、林道の整備であり、わらび野、そして観光わらび園をつくりあげ維持してきた地域の人々の力です。

こうした自然と人々の生活が融合してつくりあげた「樽口峠展望台からの飯豊連峰の眺望」は小国ブランドと言えるのではないのでしょうか。